



スクールカウンセラーだより

令和7年 11月号

「子どもの叱り方を考える」その6

「4」 「家庭内ヤクザになるな」の法則

ヤクザが一番大切にしているのは「メンツ」です。これに泥を塗られると、相手を絶対許しません。なぜなら、その先、他のヤクザになめられ、任侠の世界で生きていけなくなるからです。

親、とくに父親が家庭内ヤクザになりやすいです。最初はまだ穏やかに子どもの話を聞いていますが、子どもが黙り込んだり、何度も話しても言ふことを聞かなかつたりすると、自分のメンツをつぶされたと思い「俺をなめてんのかワレ、イテまうぞ、殺したろか！」という風に口調も巻き舌のヤクザのようになります。

この乱暴な言葉がエキサイトしてくると、体罰という行動につながりかねません。性別を問わず、元ヤンキーや不良の経験のある親御さんによく見受けられる言動です。これは力で子どもを押さえつける代表的な行為です。これを続けると、子どもは親から逃げるようになり、嘘もつくようになります。そうなるとまた、親が子どもに「なめてんのか！ワレ！嘘ばっかりつきやがって！・・・」。

ヤクザのような口調で叱ることは、言葉の暴力になります。言葉の暴力は身体的暴力と同等に、子どもの心や行動に様々

な悪影響を及ぼします。たとえば・・・

- ・自己肯定感の低下：「自分はダメなんだ」と思い込みやすくなる
- ・不安や緊張：学校や家庭で常にビクビクしてしまう
- ・攻撃的な言動：自分が受けた言葉を他人にぶつけてしまう
- ・感情の爆発や「キレる」行動：些細なことで怒りを爆発させる
- ・言葉の使い方が乱れる：「死ね」「うざい」など過激な言葉を日常的に使うようになる
- ・人間関係のトラブル：友達との関係がうまく築けなくなる

夫が子どもにきつく当たると、妻は子どもをかばいます。そうなると夫は妻にもメンツをつぶされたと思い「お前がいつもこいつを甘やかせるからだ！」と妻にも巻き舌で八つ当たりします。そうなると夫婦関係も悪くなりかねません。

ここで「叱る」の意味をもう一度思い出して下さい。子どもを力でひれ伏させるのではなく、子どもをより良い方向に導くために注意やアドバイスをすることでしたね。

一人で悩まずにスクールカウンセラーに相談してみませんか？

あらゆる心理技法を駆使して、みなさまのメンタルヘルスをお守りします

～～ご予約について～～

完全予約制です。初回のご予約は先生を通じてお申し込みください。2回目からは相談室で直接予約していただけます。

皆様のご来室を、心よりお待ちしております。

スクールカウンセラー 古川秀明